

# 医療人能力開発センター & 医学教育センター

## Wind News letter No.46

バッグナンバーは「GUNMAS」およびHPIに掲載しています

医療人能力開発センターホームページ

<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

こちらから入って各部門をクリックしてご覧ください。



2016.5.19 No.46

### 医療人能力開発センター

臨床研修センター/スキルラボ部門

男女協働キャリア支援部門

看護職キャリア支援部門

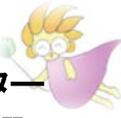
群馬県地域医療支援センター

内線 7736 E-mail: [c-center@ml.gunma-u.ac.jp](mailto:c-center@ml.gunma-u.ac.jp)

### 医学教育センター

内線 8017

E-mail: [cme.gunma.univ@gmail.com](mailto:cme.gunma.univ@gmail.com)



## 2年間の初期臨床研修、修了式です

平成28年3月29日(火)

平成28年3月29日(火)、医科11期生/歯科9期生の計37名の研修医の臨床研修修了証授与式が行われました。

2年間、日々の臨床研修を支えてくださった指導医・スタッフの皆さま、ありがとうございます。

本院での2年間の臨床研修を通して大きく成長した研修医の先生方の、これからの益々のご活躍を心よりお祈りいたします！



## 新・初期臨床研修医、始動です！ 指導医と研修医 懇談会

平成28年4月4日(月)

平成28年4月4日(月)、医科13期生14名・歯科11期生4名の新初期臨床研修医と、指導医および2年目臨床研修医の意見交換会(懇談会)が石井ホールにて開催されました。

各診療科から、多数の指導医にご参加いただきありがとうございます。今年度も、研修医へのご指導と当院の臨床研修への益々のご協力を、どうかよろしくお願いいたします！！



オリエンテーション2日目、まだ緊張が残る初期臨床研修医の皆さんです。

# 新・初期臨床研修医 オリエンテーションが無事終了しました ご協力ありがとうございました

平成28年4月1日(金)～4月7日(木)

今年度も例年通り、本院で研修を開始する初期臨床研修医のオリエンテーションが、4月1日から5日間の日程で行われました。

全員による医療安全の講義やBLS/AED実習に加え、内科・外科・検査部/感染制御部・輸血部・システム統合センターの5部門での実習を、班別による少人数指導で実施していただきました。

また、今年度は新たに、「医療倫理」の講習と「医師の接遇」に関する実習が加わり、より充実した内容となりました。救急部/大嶋清宏先生、内科・外科・検査部/感染制御部の各担当先生方、輸血部/横濱章彦先生、システム統合センター/齋藤勇一郎先生、医の倫理・医学哲学講座/服部健司先生、また関係各病棟・部署のスタッフの皆さま、お忙しい中、ご協力大変ありがとうございました。

4月8日(金)からはよいよ各診療科での研修が始まり、研修医の皆さんは日々さらに努力を重ねてくれている事と思います。引き続き、皆様の温かいご指導を、何卒よろしくお願いいたします。

(臨床研修センター 菊地 麻美)



外科実習



内科実習



輸血部実習



システム統合センター実習



検査部/感染制御部実習



接遇実習



BLS/AED実習



医療安全講習



医の倫理・生命倫理

## 女性医師支援プログラム

# 「医師ワークライフ支援プログラム」へと変更

## 2016年4月より男性も利用可能となりました

2010年4月に女性医師等教育・支援部門が設立され、6年が経過しました。2006年に策定されていた「女性医師支援プログラム」は、出産・育児からの復帰時を中心に80名以上の方が利用し、女性医師がキャリアを中断することなく仕事を継続するために、大きな役割を果たしてきました。

社会では女性活躍推進法が制定され、群馬大学においても、2013年度より男女共同参画推進のための活動が進められています。男性の育児参画、男女問わず介護問題への対応など、今後考えていかなければならない問題が多々あります。このような流れに遅れることのないよう、2016年4月、女性医師支援プログラムは男性も利用できるように改定し、「医師ワークライフ支援プログラム」と名称を変更しました。これに伴い、女性医師等・教育支援部門も男女協働キャリア支援部門となりました。

日本の女性の社会への参画率は先進国の中では低く、上位職に就く女性が少ないことも指摘されています。男女共同参画は、多様性を受け入れる文化として、日本が国際的に求められていることでもあります。男女問わず、組織や社会の中でどうあるべきかを考え、より充実したキャリアを目指す医療者が増えること、それが可能な環境が当然となることを期待しています。（男女協働キャリア支援部門 永井 弥生）

医師ワークライフ支援プログラムは、フレキシブルな短時間勤務を可能とするプログラムです。下記の2種類があります。

- 医員（パート） 週4時間～30時間まで、個別に時間や曜日を設定
  - 特定委員 週4日32時間勤務
- \* ほとんどの方が、フレキシブルに勤務日や時間が決定できる医員（パート）勤務を利用しています。

プログラムを利用できる方

- ・ 出産・育児・介護等で臨床現場から離れているが、再就職の希望を持つ者
- ・ 出産・育児・介護等その他の理由による、短時間勤務または宿日直業務の免除を希望する者

\* ご不明な点は医療人能力開発センターまでお問い合わせください。

## 市川先生が医療の質・安全管理部長賞 研修医特別賞を受賞しました

毎年、部署に贈らせていただいている医療の質・安全管理部長賞ですが、今回はじめて、個人の方に特別賞を贈らせていただきました。（部署の受賞は、ファインプレーの検体搜索をしていただいた病理部です。）

インシデントを丁寧に分析し、改善策を考えて報告し、今後に生かすという習慣を、研修医のときから持っていたことはとても重要です。入職当初から、また研修医セミナーなどの際にもお邪魔して、研修医の先生方に報告をお願いしてきました。

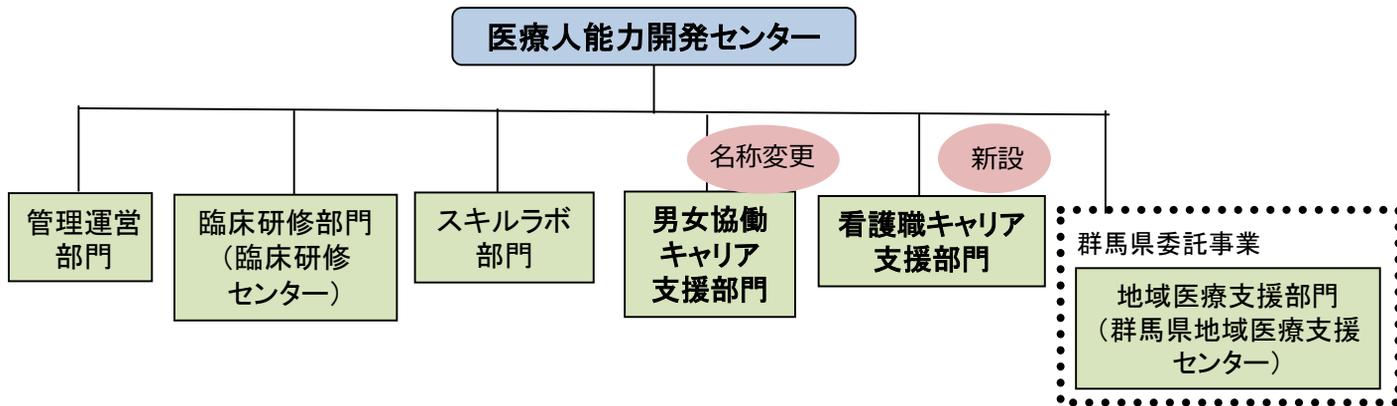
市川優美先生は、初期臨床研修医の2年間（群大での研修は1年半）で最も多くのバリエーションを含むインシデントを報告され、また、その内容が大変充実していました。現在は救急部のシニアレジデントとして頑張っています。救急部初めての女性医師としての期待は大きく、これからの活躍を楽しみにしています。

研修医の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（医療の質・安全管理部長 永井 弥生）



救急部のみなさんと  
左から澤田先生、受賞の市川優美先生、  
一色先生、大嶋教授



今年度もよろしくお願ひします。

◆ 医療人能力開発センター

センター長 荒川 浩一

副センター長 鎌田 英男  
副センター長 永井 弥生  
副センター長 高田 幸子

臨床研修部門	菊地 麻美 (副センター長)
スキルラボ部門	田中 和美 (責任者)
男女協働キャリア支援部門	永井 弥生 (責任者)
看護職キャリア支援部門	高田 幸子 (責任者)
看護職キャリア支援部門	大谷 忠広
地域医療支援部門	羽鳥 麗子 (責任者)
地域医療支援部門	土岐 明子

◆ 医学教育センター

センター長 峯岸 敬

副センター長 鎌田 英男

医学基礎教育部門	岸 美紀子 (部門長)
	鈴木 啓・關 麻衣・高橋 雄太
	谷口 委代・葩島 旭・山田 勢太
	山本 華子
地域医学教育部門	鎌田 英男 (部門長)
	常川 勝彦
リカレント教育部門	菊地 麻美 (部門長)
	井手野 由季

HP: <http://cme.med.gunma-u.ac.jp/>

医療人能力開発センター 副センター長 就任挨拶

副看護部長 高田 幸子

4月より、本センター内に看護職キャリア支援部門が新設され、責任者となりました高田と申します。現在、看護職員数は約800名となり、質の高い看護を提供し続ける上で、看護職員への教育・キャリア支援はますます重要となってきました。

看護職キャリア支援部門では、①看護職の生涯教育に関すること②看護職キャリア支援プログラムの開発・キャリア管理③保健学研究科との連携推進に関すること④学生の臨地実習に関すること⑤地域看護職への研修支援に関すること⑥その他看護職支援に関すること、以上6つの業務に取り組み、更なる看護の質向上のため、看護職員を支援していきます。どうぞよろしくお願ひいたします。



編集後記 (2016. 5. 19)

新年度がスタートしました。フレッシュな研修医の先生方を迎え、指導医との懇談会には診療科の先生方も多数参加してくださり、皆様の熱意を感じました。旧女性医師支援プログラムは念願の(?) 男性の利用が可能となりました。希望の声も若干聞きながら、数年前に話を出したときには進められなかったのですが、今回はスムーズに決まりました。時代の流れでしょうか。社会の動向に遅れることなく、体制を検討していくことが必要かと思ひます。しかしながら、現場での業務の負担が増えていることと思ひますので、効率化も考える必要がありますね。今年度もよろしくお願ひします。(YN)